

国語科学習指導案

日時：平成15年11月6日（木）5校時 場所3年4組教室

5組教室

対象：3年5組（男子19名、女子17名、計36名）

授業者 瀧野澤 徹

小石 孝紀

1 単元名 二 古典を味わう

教材名 「君待つと — 万葉・古今・新古今 — 」 （光村図書 中3）

2 単元について

(1) 教材について

本単元は「さまざまな時代の人々の思いを想像しながら古典を味わい、広く伝統文化を紹介し合う」ことを目標としている。

中学校三年生は、自我に目覚め社会の価値観を獲得しながら自己が形成される時期である。しかし、自分の価値観に固執しがちになり、視野が狭くなったり、他の人の意見に耳を貸さなかったりすることがある。このような時期に、さまざまな時代に生きた人々の思いをとらえ、時代が持つ価値観はもちろん、時代が違っても変わらない人々の思いや願いについて考えさせることは、大きな意義があるであろう。また、日本語を話すものとして日本の伝統文化に触れ、その良さを味わい価値を再認識することも意義深いと考えられる。こういう学習も経験しながら、人間的により大きく成長をしていくことであろう。

当教材の「君待つと — 万葉・古今・新古今 — 」は、教科書の構成では当単元の最初に位置しているものである。生徒は三学年になってから、すでに「夏草『おくのほそ道』から」と「項羽『史記』から」を学習しており、古典に対する興味も湧いているところである。2学期のこの時期に日本三大和歌集に触れさせることにより、古典に対するさらなる興味を喚起できると考えている。

元来和歌は、人々の喜怒哀楽を表現するものであり、生活と切り離せない表現手段であった。労働の楽しさや生活の苦しみ、人を思う切ない気持ち、別れの悲しみ、自然のすばらしさ……。古来から日本人は、それぞれの時代のそれぞれの階層の人々の種々の思いを、定型にのせて歌い続けてきたといえよう。

「万葉集」は、作者が天皇・貴族にとどまらず、庶民や兵士まで、幅広い層の人達の思いが率直に歌われている。教科書に載っているのは、天皇・貴族・防人の歌であるが、自然を歌ったもの、恋する気持ちをうたったもの、家族への思いをうたったものなど生徒が十分共感できる内容であろう。平安時代に成立した「古今和歌集」は、「古今調」と呼ばれるやわらかい優美な表現が特徴となっている。教科書の歌は恋の歌が多く取り上げられている。一方鎌倉時代に成立した「新古今和歌集」は、技巧的で繊細な表現を特徴とし「新古今調」といわれている。教科書に載っている歌は、四首のうち三首が景色を歌ったもの。その風情に日本的な美というものを感じてくれると思われる。

それぞれ成立した時代によってそのよさや表現方法に違いが見られるが、教科書で取り上げられている作品は、題材・表現の豊かさ・作者の個性や今と変わらない思いなど魅力も多い。朗読を通して韻文の持つリズムや語感を味わえるばかりでなく、作者の心情や情景などの鑑賞にも心惹かれていくであろう。

こうした日本古典の優れた作品に触れさせることを通して、日本文化に対する興味も喚起できたと考えている。

今回の学習は、古典学習の三年間のまとめとして取り扱う。今後も古典に対する興味をもてるように配慮していきたい。

(2) 生徒について

国語に関しては、比較的前向きな生徒が多い。パネルディスカッションやシンポジウムなどの話し合いの授業は少しずつではあるが話し合い伝え合う楽しさを実感している。また、文学的文章では、様々な視点から捉えられる生徒も多く、解釈が広がるが多くなった。しかし、一人ひとりの理解力や表現力の差が大きく、ときに学習に前向きに取り組めなかったり、教材によっては取り組む姿勢に波があったりする生徒もあり、指導が必要などときがある。また、自分の考えに固執しまいがちな生徒もいる。

二学年では、読書教材「本の世界を広げよう」の「短歌と俳句、それぞれの表現」で短歌や俳句の世界を鑑賞してきた。また、「四 古典を楽しむ」の「扇的」や「思いをつづる」「漢詩の風景」では、それぞれの時代に生きた人々の暮らしや思いを想像しながら読み進めてきた。三学年では、「二 古典を味わう」の「夏草 — 『おくのほそ道』から — 」では作者の思いをとらえたり、俳句を読み味わったりする学習をしてきた。

しかし、古典や和歌そのものに対する興味・関心は決して高くはない。また、和歌や短歌の形式や破格についてはほとんど身に付いているものの、句切れや表現技法などの既習事項については十分身につけていない生徒もいる。時代背景や作品集に関する知識も多いとはいえない。そこで、和歌に対する興味を喚起しながら、基礎・基本事項を指導していく必要がある。

なお、古語の意味の理解については抵抗があるため、口語訳を添えながら学習を進めていくなどの配慮をしていきたい。

(3) 指導について

当学年の国語は、昨年度週に一度の割合でティームティーチングで指導してきた。この指導形態は、つまずきのある生徒に対する支援や調べ学習の手だて、話し合いの学習などに有効であった。

今年度は少人数制を導入し、各学級を二つに分け、学期に1・2回の割合で交代しながら授業を進めている。分け方は、基本的には出席番号で分けることにしている。これは、二人の指導者で評価することを生かし、全生徒をなるべくおしなべて見られるようにするためである。

少人数制は一斉指導に比べて、生徒の発想が広がりにくいという点や評価の仕方が難しいという点、二つの授業のそろえ方など解決していかなくてはならない点が多くある。しかし、生徒一人ひとりの様子をより細かく観察することができること、またそれによってつまずきなどにより対応しやすいという利点がある。さらに、二人の授業者が協力し学び合いながら授業を組み立てられるということも利点としてあげられる。

今回の授業も少人数制で行う。一人ひとりの興味・関心を引き出し、和歌の魅力に触れさせ鑑賞させていきたい。まずは、「チョコレート語訳」で選択した和歌によって「万葉集」グループと「古今集・新古今集」グループの二つに分け、取り立てて授業を進めていくことを考えている。「語訳」した作品は廊下に掲示し、鑑賞させていきたい。

「チョコレート語訳」とは、歌人俵万智さんの「チョコレート語訳 みだれ髪」という作品からとったものである。この作品は、「与謝野晶子」の「みだれ髪」を彼女が現代語で「翻訳」した作品集である。原作の持つ魅力や雰囲気を見失わずに現代語で「翻訳」しており、原作者及び作品に対する敬意も感じられる。同時に、原作の素晴らしさも引き立たせてくれるものとなっている。

生徒の実態から、和歌に対する興味・関心をいかに引き出せるかが大切である。そこで、和歌をより身近なものと感じさせていく手だてとして「チョコレート語訳」を取り入れることにする。現代語に翻訳させることにより、はるかな昔に書かれた作品がより身近に感じられるものと考えている。

さらに、中学校古典の学習のまとめということから、卒業後の学習につながるような配慮もしていきたい。

重視する「読む能力」(学習指導要領より)

- (1) ア 文脈(詩歌)の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てること。
- (2) エ 文章(詩歌)を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと。

3 教材の目標

(1)「関心・意欲・態度」に関する目標

○「チョコレート語訳」を通して様々な和歌に興味・関心を持ち、自分なりの形式で意欲的に表現しようとする。

(2)「読む能力」に関する目標

○作品の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てることができる。

○日本三大和歌集の和歌を通して人間や自然、社会などに対する昔の人(作者)の思いを読み取ることができる。

(3)「言語についての知識・理解・技能」に関する目標

○古文特有の仮名遣いや言葉の使われ方、現代文との意味の違いを理解することができる。

4 評価規準

	学習活動	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
1	○読みと口語訳を確かめる。		◎言葉の響きやリズムを考えて朗読している。 (観察・自己評価シート) ◎和歌の大意から、情景や心情をとらえている。(作品)	◎古典特有の仮名遣いや言葉の使われ方、現代文との意味の違いについて理解している。 (観察・作品)
2 3	好きな和歌を翻訳する。	◎和歌に関心を持ち、積極的に「チョコレート語訳」をしようとしている。 (自己評価シート)	◎好きな和歌の大意をもとに「チョコレート語訳」をしている。 (作品)	
4	翻訳した和歌を発表し合う。	◎「チョコレート語訳」をした和歌を積極的に発表しようとしたり原作や仲間の作品について感想を持ったりしている。 (観察・自己評価シート) ◎原作の持つ「よさ」を見つけようとしている。	◎和歌の表現の特徴に気づき、作者の自然や人間に対するものの見方や感じ方を読み取っている。 (観察・自己評価シート)	

5 指導計画（時間）

- ①読みと大意を確かめる。…………… 1時間
- ②和歌をひとつ選び翻訳する。…………… 2時間
- ③翻訳した和歌を発表し合う。…………… 1時間（本時）

6 本時について

(1) 目標

- ①「チョコレート語訳」で工夫したところやもともとあった作品の「よさ」について話し合いながら、作者の思いを読み取る。

(2) 指導構想

人間や自然、社会などに対する昔の人の思いに迫らせるために、以下の手だてをもって指導にあたりたい。

- 意欲的に原作の魅力や作者の思いを話し合わせるために
 - ・「チョコレート語訳」をさせることにより、共感をもって主体的に作品に関わらせる。
 - ・名前を書いた紙板書を活用し、話を聞きたい和歌を選ばせ意思表示させる。
 - ・「チョコレート語訳」の紹介をしながら原作の持つ魅力や表現の工夫を語らせていく。

(3) 判断基準

	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する生徒への手だて
読むこと	◎「チョコレート語訳」をした和歌を通して表現の特徴に気づき、作者の自然や人間に対するものの見方や感じ方に十分に共感しながら読み取っている。	◎「チョコレート語訳」をした和歌を通して表現の特徴に気づき、作者の自然や人間に対するものの見方や感じ方を読み取っている。	◎和歌の表現の特徴に気づかせ、特に印象に残った和歌について感想がもてるように感じたことを確認させる。

(4)展開

学習過程	生徒の活動	教師の指導・支援	評価・備考
導入 1 課題把握 (1)課題づくり	<ul style="list-style-type: none"> 前時に「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」を読みチョコレート語訳に取り組んだことを想起し、課題に対する意識を持つ。 ①俵万智さんの「チョコレート語訳」を想起する。 ②自分の選んだ和歌を想起する。 ③今日の学習が「チョコレート語訳」を発表して原作の魅力に迫る学習であることを確かめ、学習に対する意欲を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習について確認し、課題を解決したいという意欲を持たせる。 ①俵万智さんの「チョコレート語訳」の和歌で好きなものをあげられる。 ②それぞれ選んだ和歌を発表させる。 ③「チョコレート語訳」を発表しあいながら、原作の魅力味わうことを知らせる。 	
5分 (2)課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> 課題をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> △課題をとらえられたか。
<p>「チョコレート語訳」した和歌を通して原作の魅力を味わおう</p>			
展開 1 課題追究 (1)課題解決方法の確認	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの作品の和歌を音読し読み方を確かめる。 本時に学習する和歌を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に載っている作品を音読させる。 本時に取り扱う和歌を黒板に掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙板書
35分 (2)追究	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の流れを確認する。 ①「チョコレート語訳」の短歌を黒板に貼って発表する。 ②みんなの作った短歌の工夫したところやよさを話し合う。 ③原作の魅力について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のすすめ方を口頭で説明する。 ①生徒の作った「チョコレート語訳」の紙板書を黒板に貼る。 ②「チョコレート語訳」を作る上での工夫や苦労したところを発表する。 ③原作と比べて原作の魅力に迫る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「チョコレート語訳」紙板書
	<ul style="list-style-type: none"> 「チョコレート語訳」の短歌を黒板にそれぞれ貼る。 みんなの作った「チョコレート語訳」の短歌を知る。 説明を聞いてみたい「チョコレート語訳」の作品を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が事前に行った「チョコレート語訳」の和歌の紙板書を黒板に貼らせる。 生徒の作品を朗読する。 説明を聞きたい「チョコレート語訳」の和歌に名前を書いた紙板書を貼らせる。 生徒の作品を相互評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> △相互評価
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作った「チョコレート語訳」の短歌について説明しあう。 ○工夫したところ ○苦労したところ ○表現技法 ○原作と変えたところ ○対比しているもの ○同じイメージでとらえているもの ○視点の変化 ○時代背景、作者の状況 ○作者の気持ち ○原作の魅力 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の作った「チョコレート語訳」の和歌を指名してそれぞれ説明させる。 ○「工夫したところはどこか。」 ○「苦労したところはどこか。」 ○「表現技法は何を使ったか。」 ○「原作と変えたところはどこか。」 ○「対比して描かれているものは何と何か。」 ○「同じイメージで描かれているものは何と何か。」 ○「視点の変化はないか。」 ○「時代背景や作者の状況をどう解釈したか。」 ○「どんな気持ちで和歌に込められているのか。」 ○「『チョコレート語訳』をしてみてもわかった原作の魅力は何か。」 	<ul style="list-style-type: none"> 説明の足りないところを質問で補う。
	<ul style="list-style-type: none"> 原作の和歌の魅力について話し合う。 ○表現技法 ○対比しているもの ○同じイメージでとらえているもの ○視点の変化 ○時代背景、作者の状況 ○作者の気持ち ○原作の魅力と作品に対する一般的な評価 	<ul style="list-style-type: none"> 原作の和歌に焦点を当て、本来の意味や魅力をとらえさせる。 ○「どんな表現技法が使われているか。」 ○「対比して描かれているものは何と何か。」 ○「同じイメージで描かれているものは何と何か。」 ○「視点の変化はないか。」 ○「時代背景や作者の状況をどうか。」 ○「どんな気持ちで和歌に込められているのか。」 ○「原作のどこに魅力を感じるか。」 ○「作者はどんな人か。」 ○「一般的にどのようにこの歌が解釈されているか。」 	<ul style="list-style-type: none"> △焦点を絞って明らかにさせていきたい
	<ul style="list-style-type: none"> 好きな原作を選び、順位をつける。 ○好きな和歌に紙板書を貼る。 ○周りの人が好きな和歌を知る。 ○人気のある和歌についてその魅力を語り合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな和歌に紙板書を貼り、人気にある和歌についてその魅力をとらえさせ、共感させる。 ○好きな和歌に紙板書を貼らせる。 ○人気のある和歌を確認させる。 ○人気の高かった和歌の魅力を話し合わせ共感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙板書
3 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 授業の感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の感想を短作文に書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> △授業の感想を作文にまとめることができたか。
終末 10分 4 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 感想を発表し合う。 他の歌集の和歌や「チョコレート語訳」の和歌について興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を感想を発表させることで振り返らせる。 他の歌集の「チョコレート語訳」の和歌について廊下に張り出すことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> △自己評価シート

二単元 「古典を味わう～君待つと～」 和歌についての意識調査シート

3年 組 氏名

項 目	◇ 自 己 評 価
◆古典の学習に対して興味・関心がありますか。	A B C D
◆和歌の学習に対して興味・関心がありますか。	A B C D

◆今回の和歌の学習でどのようなことを学んでいきたいですか。

◆和歌（短歌）についての基本的なことを確認します。

(1) 和歌（短歌）の形式は（ ）の三十一音
 です。
 三十一音より音数が多いと（ ）といい、音数が少ないと（ ）と
 いいます。

(2) 次の短歌を読んで、後の問いに答えなさい。

A 海恋し潮の遠鳴りかぞへては少女となりし父母の家	与謝野晶子
B 寝静まる里のともしびみな消えて天の川白し竹やぶの上に	正岡 子規

- ① A、Bそれぞれの短歌の句切れを答えなさい。 A ()
 B ()
- ② A、Bそれぞれの短歌で効果的に使われている表現技法を次のア～オから
 一つ選んで答えなさい A ()
 B ()

ア 擬人法 イ 体言止め ウ 倒置法 エ 反復法 オ 枕詞

○評価の基準 たいへんある→A ややある→B どちらかというもない→C ほとんどない→D

俵万智さんの「チヨコレイト語訳」に挑戦しよう。

俵万智

一九六二年、大阪生まれ。八五年、作品「八月の朝」五十首で第三二回角川短歌賞を受賞。八六年歌集「サラダ記念日」刊行。同書で第三二回現代歌人協会賞受賞。著書に、「かぜのてのひら」「チヨコレイト革命」等多数。

俵万智さんが「与謝野晶子」の短歌を現代語に訳して短歌を作り直しました。それを「チヨコレイト語訳」として本を出版しました。「チヨコレイト語訳 みだれ髪」がそれです。そこで、みなさんにもこの「チヨコレイト語訳」に挑戦してもらいたいと思います。そして、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集を皆さんの言葉で新たな命を吹き込んでほしいと思います。

与謝野晶子 一八七八—一九四二。大阪出身。与謝野鉄幹の歌風にひかれて「明星」に参加。第一歌集「みだれ髪」の大胆で情熱的な青春歌が大きな反響を呼んだ。

○髪五尺ときなば水にやはらかき

少女ごころはひめて放たじ

たっぷりと湯に浮く髪のやわらかき

乙女ごころは誰にもみせぬ

○誰ぞ夕ひがし生駒の山の上の

まよひの雲にこの子うらなへ

生駒山の夕べさまよう雲たちで誰か私の恋占って

○なにとなく君に待たるるこちして

出でし花野の夕月夜かな

なんとなく君が待ってる気がしたの

花野に出れば月がひらひら

○さびしさに百二十里をそぞろ来ぬと

云ふ人あらばあらば如何ならむ

「逢いたくて500キロひたすら来たんだ」と

そんなあなたがいたなら、いたなら

与謝野晶子「臙脂紫」より

チヨコレイト語訳の仕方

321 短歌にすること
現代の言葉に直してもよい。ただしその場合原文のニュアンスを大切にすること
助詞を付け加えたとわかりやすくするので、ためしてみることに

君待つと ——— 万葉・古今・新古今 ———

組番

俵万智さんの「チヨコレート語訳」に挑戦しよう。

○選んだ和歌

作者名

○チヨコレート語訳

○チヨコレート語訳について

現代語と意味の違う言葉・工夫したところ・表現技法・原作と変えたところ・対比・同じイメージ・歌に込められた気持ち等

君待つと——万葉・古今・新古今——

組番

「チヨコレート語訳」した和歌を通して原作の魅力を味わおう

万葉集

春過ぎて夏来るらし白栲の衣乾したり天の香具山

持統天皇

真つ白な衣もかわく夏が来た春も過ぎゆく天の香具山

東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ

柿本人麻呂

東方の野に曙の上るとき西見てみると月傾きぬ

薄紅色朝が来そうなこの瞬間に後ろを見れば去るは藍色

明けがたの空に果てなく光みちかへり見すれば月眠りゆく

東の地光に染まりて振り向けば夜の光の沈み行く時

君待つと吾が恋ひをれば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く

額田王

君を待ちいとしく思えば思うほど秋の風にも心ときめく

瓜食めば 子ども思ほゆ 粟食めば まして偲はゆ 何処より
来りしものぞ 眼交に もとな懸りて 安眠し寝さぬ

山上憶良

反歌

銀も金も玉も何せむに勝れる宝子に及かめやも

宝石も金も銀も何になろう我が子に勝る至宝なし

銀も金も玉も何になる子に勝るのか勝りはしない

春の野にすみれ探みにと来しわれそ野をなつかしみ一夜寝にける

山部赤人

なつかしくすみれを摘みに来たわたしもっといたくて眠ってしまった

春の野にすみれを採もうと来てみたが野を去りがたく一夜眠った

すみれ摘む春の野原がなつかしくもっといたくて一晚眠る

すみれ舞う野をかけめぐり去りがたし花のベッドで一夜夢の中

春の野にすみれを採みに来たけれどそのまま野原で一夜をすごす

父母が頭かき撫で幸くあれていひし言葉せ忘れかねつる

防人歌

父母が頭をなでて「達者で」といった言葉が戦の支え

新しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重け吉事

大伴家持

めでたいな今年一年幸せがたくさん積もれと雪に願いけり

元旦を祝うかのごとく降る雪に重ねて願う皆の良いこと

君待つと——万葉・古今・新古今——

組番

「チヨコレート語訳」した和歌を通して原作の魅力を味わおう

古今和歌集

人はいさ心もしらずふるさとは花ぞむかしの香ににほひける 紀貫之

あの人の心の中は見えないがふるさとの梅なつかしく香る

元カノの心は変わるがなつかしの梅のかおりはむかえてくれよう

秋の夜の明くるも知らず鳴く虫はわがこともやかなしかるらむ 藤原敏行

秋の夜明けるのも知らずすすむしは私のように何を悲しむ

秋の夜夜明けを知らず鳴く虫よ何が悲しい私と同じに

おもひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを 小野小町

いつまでも浸っていたいこの夢に目覚めたわたしちよつと憂鬱

あの人を思つて眠り夢の中愛しい時間まださめないで

おもいつつ寝たらば彼が現れて夢と知ったら起きないだろうに

あの人を胸に秘めつつ床につき夢に出たとき私は幸せ

あの人をふと思つて眠つたよ夢から目覚め恋にも目覚める

枕元あふれる思い秘め出でてこれは夢なの夢なのね

愛しいと思う気持ちは夢に出る夢と知りせば心切なし

飛鳥川淵は瀬になる世なりとも思ひそめてむ人は忘れじ よみ人しらず

変わりやすい世の中だけどここの思い変わりはしないこの恋心

新古今和歌集

花さそふ比良の山風吹きにけりこぎゆく舟の跡みゆるまで

宮内卿

比良山の春風に吹かれ舞う桜こぎゆく舟の跡華の道

また一枚もう一枚と花が散りおちゆく水面花のじゅうたん

道のべに清水流るる柳かげしばしとてこそ立ちとまりつれ

西行法師

涼しげに流れる清水が気持ちよく気付けば長くいすぎてしまい

心地よいあつさを忘れる清水の音過ぎさる時をおしむよに

我忘れ清水が流れ涼しげに柳の木陰で今ひとときを

見わたせば花ももみちもなかりけり浦のとま屋の秋の夕暮

藤原定家

秋の浜花ももみじも何もない粗末なとまにさす夕日

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることのよわりもぞする 式子内親王

国語3年 「古典を味わう」君待つと」 自己評価シート

◇ 項 目	◇ 自 己 評 価
<p>チヨコレート語訳した仲間の和歌の良さを理解し、自分の感想を持つことができたか。</p>	<p>A B C D</p>
<p>原作の和歌の表現の特徴に気づき、魅力を感じとることができたか。</p>	<p>A B C D</p>
<p>今回の学習を通して、古典（和歌）の学習に対して興味・関心を持つことができたか。</p>	<p>A B C D</p>

◆ 評価の基準

よくできた → A どちらかといつてもできた → B
 どちらかといつてもできなかった → C よくできなかった → D

★感想（授業を通して感じたことや分かったことなど）

学習の評価表「万葉集グループ」

3-
万葉集グループ

<p>1 D 2 D 3 C 4 和歌の意味をわかりさらに深めつ、考えるようになりたい。</p> <p>5 東方の野に曙の上るとき 西見て見ると月傾きぬ 6 柿本人麻呂 東の野に炎の立つ見えて</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 B 4 独特の言い回しや書いた人の気持ちを深く知りたい。</p> <p>5 明け方の空に果てなく光みちかへり見すれば月眠りゆく 6 柿本人麻呂 東の野に炎の立つ見えて</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 A 4 作者の思いを感じとれるようになりたい。</p> <p>5 元旦を祝うかのごとく降る雪に重ねて願う皆の良きこと 6 大伴家持 新しき年の始めの初春の</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 A 4 作者の気持ちや全体的なこと</p> <p>5 めでたいな今年一年幸せがたくさん積もれと雪に願いけり 6 大伴家持 新しき年の始めの初春の</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 C 2 B 3 A 4 和歌の作者の思いを知りたい。</p> <p>5 真っ白な衣もかわく夏が来た 春も過ぎゆく天の香具山 6 持統天皇 春過ぎて夏来るらし</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 C 3 A 4 さまざまな和歌を読んで、三大和歌の特徴を知りたい。</p> <p>5 春の野にすみれを採もうと来てみたが野を去りがたく一夜眠った 6 山部赤人 春の野にすみれ採みにし</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>
<p>1 A 2 C 3 A 4 和歌の良いところを学ぶ。</p> <p>5 宝石も金も銀も何になろう 我が子に勝る至玉なし 6 山上憶良 銀も金も玉も何せむに</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 A 4 その和歌の情景を読み取りたい。</p> <p>5 すみれ舞う野をかけめぐり去りがたし花のベットで一夜夢の中 6 山部赤人 春の野にすみれ採みにし</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 A 4 和歌の意味を学習したい。</p> <p>5 6 山部赤人 春の野にすみれ採みにし</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 C 2 B 3 A 4 さまざまな和歌を聞いて、自分の力でその意味を理解できるようにになりたい。</p> <p>5 薄紅色朝が来そうなこの瞬間に後を見れば去るは藍色 6 柿本人麻呂 東の野に炎の立つ見えて</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 A 2 B 3 C 4 昔の和歌の物事の表現の仕方。</p> <p>5 父母が頭をなでて「達者」でといった言葉が戦の支え 6 防人歌 父母が頭かき撫で幸くあれて</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 A 4 作者の気持ちが分かるように学んでいきたい。自分も歌を作ってみたい。</p> <p>5 東の地光に染まりて振り向けば夜の光の沈み行く時 6 柿本人麻呂 東の野に炎の立つ見えて</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>
<p>1 B 2 A 3 A 4 作者の伝えたいこと、それぞれの和歌のよいところなどを学んでいきたい。</p> <p>5 すみれ摘む春の野原がなつかしくもっといたくて一晩眠る 6 山部赤人 春の野にすみれ採みにし</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>△</p>	<p>1 A 2 B 3 B 4 作品に込められた思いを読み取っていきたい。</p> <p>5 銀も金も玉も何になる子に勝るのか勝りはしない 6 山上憶良 銀も金も玉も何せむに</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>△</p>	<p>1 D 2 C 3 A 4 作者の考え、気持ちに迫る学習がしたい。</p> <p>5 君を待ちいとしく思えば思うほど秋の風にも心ときめく 6 額田王 君待つと吾が恋ひをれば我が屋戸の</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 A 4 和歌の作り方</p> <p>5 なつかしくすみれを摘みに来たわたしもっといたくて眠ってしまった 6 山部赤人 春の野にすみれ採みにし</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>

1 古典への関心 (A→たいへんある B→概ねある C→どちらかというどない D→ほとんどない；項目2の基準も同様)
3 和歌に関する基本的な知識 (A→優れている B→概ねある C→支援を要する)
5 チョコレート語訳した自分の作品

2 和歌への関心
4 和歌学習で学びたいこと
6 チョコレート語訳に選んだ作品・作者

学習の評価表「古今・新古今和歌集グループ」

3
古今・新古今グループ

<p>1 A 2 A 3 B 4 作者がどのような気持ちでこのような短歌を書いたのかが知りたい。 5 涼しげに流れる清水が気持ちよく気付けば長くいすぎてしまい 6 西行法師 道のべに清水流るる柳かげ 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 B 4 和歌に込められた作者の思いが分かるようにしたい。 5 枕元あふれる思い秘めい出でてこれは夢なの夢なのね 6 小野小町 おもひつつ寝ればや 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 C 2 C 3 B 4 作者の気持ちを学んでいきたい。 5 我忘れ清水が流れ涼しげに柳の木陰で今ひとときを 6 西行法師 道のべに清水流るる柳かげ 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 C 2 B 3 A 4 和歌の美しさ、和歌の内容(意味)を深めたい。 5 秋の浜花ももみじも何もない粗末なとまにさす夕日 6 藤原定家 見わたせば花ももみじも 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 C 2 C 3 B 4 昔の言葉の素晴らしいところに気づきたい。 5 あの人の心の中は見えないがふるさとの梅なつかしく香る 6 紀貫之 人はいさ心もしらずふるさは 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 D 2 C 3 B 4 作った人の気持ちを考えたい。 5 あの人の胸に秘めつつ床につき夢に出たとき私は幸せ 6 小野小町 おもひつつ寝ればや 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>
<p>1 B 2 B 3 A 4 作者の気持ちや情景を知りたい。 5 おもひつつ寝たら彼が現れて夢と知ったら起きないだろうに 6 小野小町 おもひつつ寝ればや 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 C 2 C 3 B 4 自分で和歌を作ってみよう。昔の和歌を聞いて好きになりたい。 5 愛しいと思う気持ちは夢に出る夢と知りせば心切なし 6 小野小町 おもひつつ寝ればや 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 C 3 C 4 作者の考えを知りたい。 5 秋の夜明けの知らず知らずは私のように何を悲しむ 6 藤原敏行 秋の夜の明くるも知らず 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 A 4 表現から分かる作者の気持ちをとらえたい。 5 いつまでも浸っていたいこの夢に目覚めたわたしちょっと憂鬱 6 小野小町 おもひつつ寝ればや 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 C 3 B 4 どのような気持ちで和歌を書いたのかを学びたい。 5 心地よいあつき忘れる清水の音過ぎる時をおしむよに 6 西行法師 道のべに清水流るる柳かげ 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 C 2 C 3 B 4 表現技法がわかるようになりたい。 5 変わりやすい世の中だけこの思い変わりはないこの恋心 6 よみ人しらず 飛鳥川淵は瀬になる世なりとも 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>
<p>1 C 2 A 3 A 4 和歌一つ一つの素晴らしさをわかるようになる。 5 秋の夜夜明けを知らず鳴く虫よ何が悲しい私と同じに 6 藤原敏行 秋の夜の明くるも知らず 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 C 2 C 3 B 4 言い回しや書いた人の気持ちを深く知りたい。 5 比良山の春風に吹かれ舞う桜こぎゆく舟の跡華の道 6 宮内卿 花さそふ比良の山風吹きにけり 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 C 2 A 3 A 4 その作品を書いた作者の心情を知ってみたい。 5 元カノの心は変わるがなつかしの梅のかおりはわかえてくれよう 6 紀貫之 人はいさ心もしらずふるさは 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 C 4 いろいろな表現の仕方を学びたい 5 あの人をふと思つて眠ったよ夢から目覚め恋にも目覚める 6 小野小町 おもひつつ寝ればや 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 D 2 D 3 C 4 歌の良さを学びたい。 5 あの人を思つて眠り夢の中愛しい時間まださめないで 6 小野小町 おもひつつ寝ればや 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>	<p>1 B 2 B 3 A 4 作者の考えや歌に込められた思いを学びたい。 5 また一枚もう一枚と花が散りおちゆく水面花のじゅうたん 6 宮内卿 花さそふ比良の山風吹きにけり 【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>
<p>1 古典への関心 (A→たいへんある B→概ねある C→どちらかというとな D→ほとんどない：項目2の基準も同様) 2 和歌への関心 3 和歌に関する基本的な知識 (A→優れている B→概ねある C→支援を要する) 4 和歌学習で学びたいこと 5 チョコレート語訳した自分の作品 6 チョコレート語訳に選んだ作品・作者</p> <p>1 B 2 B 3 B 4 5 6</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <p>【読む能力】</p> <p>【感想】</p>					